

道徳科学習指導案

指導者 T1：景山 敦子

T2：行廣 弥生

1 学 年 第6学年1組 14名

2 日 時 令和4年9月22日（木）第5校時

3 主題名 「集団での役割」（C よりよい学校生活，集団生活の充実）

4 本時のねらい

心に長野の金メダルがずっしりと重く残っている西方さんの思いを考えることを通して，目立たなくても自分の役割を果たすことで満足感や充実感を感じられることに気付くとともに，集団の中で自分の役割をしっかりと果たそうとする心情を育てる。

5 教材名 「二十五人でつないだ金メダル」（日本文教出版）

6 主題設定の理由

（1）主題観

社会や集団には，さまざまな役割があり，一人一人がそれを果たすことで成り立っている。注目される人だけが活躍しているのではなく，その活躍を支えるために多くの人がそれぞれの役割を果たしていることに気付くことで，自分もまた支える役割であっても，その役割をしっかりと果たそうとすることが大切である。

この時期の児童は，相手や集団の仲間との関係の中で自分の役割があることに気付くことができるようになる。学校における学級集団，児童会やクラブなどの異年齢集団だけでなく，地域社会の身近な集団においても，自分の立場やその集団の向上に資する自分の役割，個人の力を合わせチームとして取り組んでこそ達成できることなどを自覚して，さまざまな活動に積極的に参加できるようにしていくことが重要である。

（2）児童観

本学級の児童は，学級での当番活動や委員会の仕事など，責任をもって行うことができる。また，本校で伝統的に伝わる「須波っ子太鼓」を継承するために，5年生に一生懸命教えている。

本学級の児童を対象にアンケートを実施した（9月2日実施）。「自分が属している集団がよくなるために，自分の役割を果たそうとがんばっていることはありますか。」という質問に対して，「ある」と答えた児童は78.6%（11名／14名）であった。「ある」と答えた児童の中には，「図書委員として，図書室の環境整備に努めている。」「登校班の班長として下級生に目を配っている。」などの回答があった。また，「どんな気持ちでがんばっていますか。」という質問に対しては，「みんなが気持ちよく過ごせるようにしたい。」「困っている人がいたら助けたい。」等，積極的に自分の役割を果たそうとしている児童が多かった。一方，「委員会の委員長を渋々やっている。」という回答もあり，自分の役割を自覚してはいるが，前向きに取り組めない児童もいることが分かる。

(3) 教材観・指導観

本教材は、長野オリンピックでの実話をもとにしている。リレハンメルオリンピックでは選手として表舞台で活躍した西方さんが、長野オリンピックでは、テストジャンパーとして参加する。選手を飛ばせるために、自分自身の役割をしっかりと果たした西方さんの姿に共感させながら、集団や社会の一員としての役割を果たすとはどういうことかについて考えさせることができる教材である。

指導にあたっては、はじめに、リレハンメルオリンピックで選手として飛んでいる西方さんの写真と、長野オリンピックでジャンプ競技をテストジャンパーとして見守る西方さんの写真を提示し、置かれている立場が大きく異なっていることをおさえる。また、長野オリンピックスキージャンプ団体の動画を見せ、教材文の内容を捉えやすくする。その後、「長野オリンピックに選手として出場できない西方さんは、どんな思いでテストジャンパーを引き受けたのでしょうか。」と問い、選手として活躍したい気持ちとチームのために役割を果たさなくてはいけないと考える西方さんの複雑な思いに共感させたい。

次に、「原田選手が自分のアンダーウェアを身に付けているのを見て、『そうか。そうだったんだ…。』』と言ったとき、どんなことに気付いたのでしょうか。」と問い、原田選手が自分と飛びたいと思っていることに気付いた西方さんの気持ちに共感することで、選手を支えたいという気持ちが高まったことに気付かせる。

その次に、「ふぶきが激しくなる中、25人のテストジャンパーは、どんな思いで飛んだのでしょうか。」と問い、西方さんも他のテストジャンパーも、観客の拍手も歓声もない中で日本に金メダルをとらせようとジャンプをし、テストジャンパーとしての役割を果たしたことに気付かせたい。

それから、「選手として出場していない長野の金がずっと重く心に残っているのはどんな思いからでしょう。」と問い、西方さんの【原田選手に対する思い】、【テストジャンパーたちに対する思い】、【役割を果たした自分への思い】等をおさえる。ここでは、T2が児童の考えを分類・整理しながら板書を行い、西方さんの思いを多面的に考えさせる。さらに、「結果が金メダルではなかったら？」と問い返し、自分の役割を仲間のために果たしたこと自体に価値があることを実感させる。

最後に、「今日の学習でどのようなことを学びましたか。」と問い、教材を通して考えたことをもとに、自分の生き方について考えさせたい。

今後、本単元の価値項目「Cよりよい学校生活、集団生活の充実」と同じ「ぼくたちの学校」を扱った授業（10月実施予定）では、須波小学校を卒業した地域の方をゲストティーチャーとして招聘し、みんなで協力してよりよい学校を創ろうとする態度を養う。

7 カリキュラム・マネジメントの取組

- 道徳学習プログラムにおいて、「自分たちでつくろう！よりよい須波小学校」をテーマとして設定し、本時の授業を行う。その後の児童会活動、須波っ子太鼓、一校一貢献（クリーン活動）等の活動で、集団の中での自分の役割を自覚し、役割を果たす満足感を感じられるようにする。
- 学びの跡を掲示することで、本時の学びが様々な活動につながっていることを可視化し、児童の行動につながるようにする。
- 学級での当番、係活動、委員会活動などで地道にがんばっている児童を終わりの会などでお互いが見つけ合う活動を行い、学級通信で授業の学びの様子を伝える。

8 本時の展開

(1) 準備物 挿絵、クロームブック、パソコン、プロジェクター、スクリーン

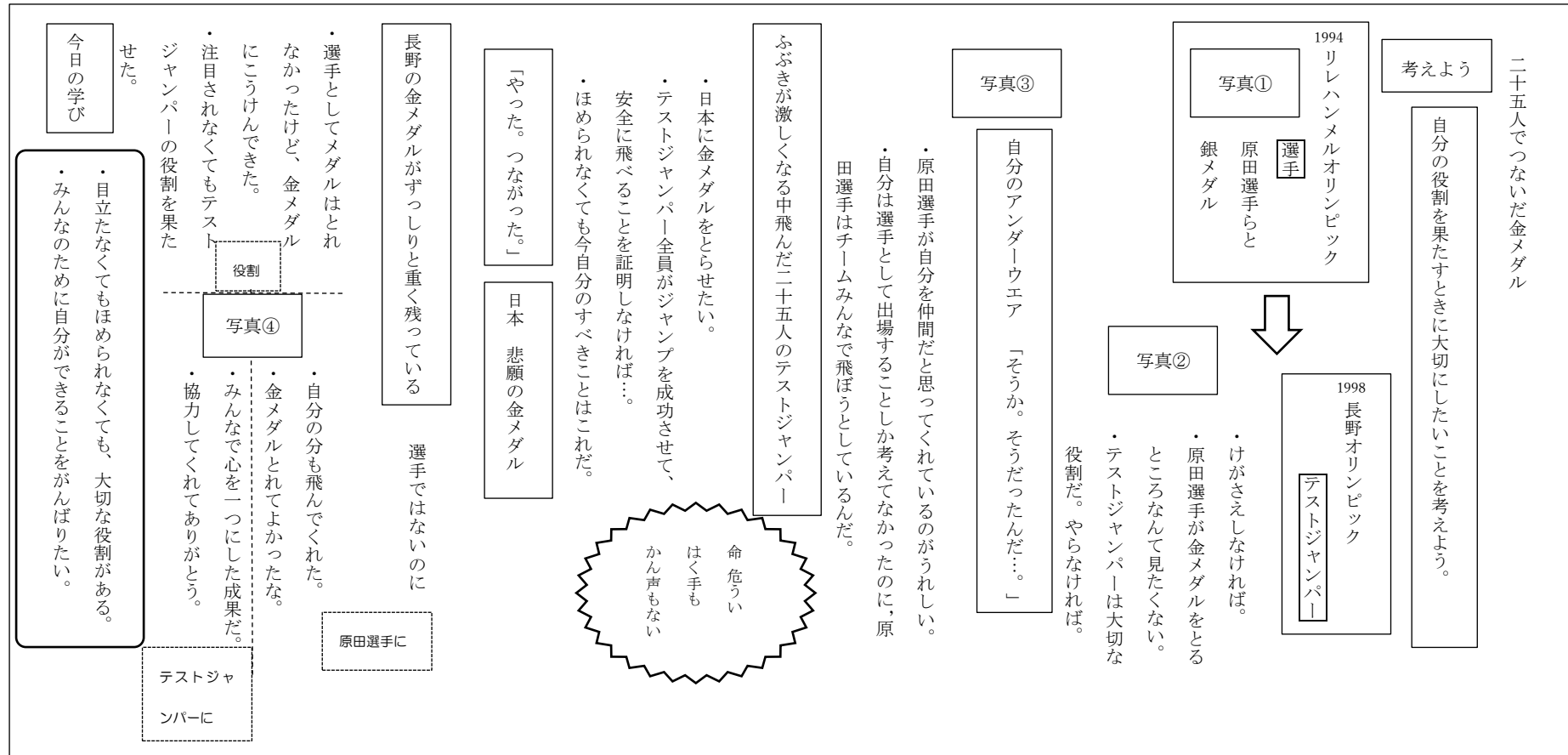
(2) 本時の学習展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入 8分	①本時で学習するテーマを捉える。	リレハンメルオリンピックで銀メダルをとった西方さんは、どんな思いで選手たちを見ていると思いますか。 ・けがさえしなければ選手として出られたのに…。 ・他の選手が金メダルをとるところなんて見たくない。 ・テストジャンパーは大切な役割だ。やらなければ…。でも…。 考えよう 日本チームのためにテストジャンパーを引き受けた西方さんの思いから、集団の中で自分の役割を果たすときに大切にしたいことを考えよう。	○長野オリンピックスキージャンプ団体の動画を見せ、教材文の内容を捉えやすくする。 ○リレハンメルオリンピックで選手として飛んでいる西方さんの写真と、長野オリンピックでジャンプ競技をテストジャンパーとして見守る西方さんの写真を提示し、置かれている立場が大きく異なっていることをおさえる。 ○テストジャンパーとは、危険が伴い体力的にも過酷な役割であるとともに、選手を目指していたものにとって屈辱的なものであることをおさえる。そのうえで、選手として活躍したい気持ちとチームのために役割を果たさなくてはいけないと考える西方さんの複雑な思いに共感させる。
展開 30分	②教材「二十五人でつないだ金メダル」を読んで考え、話し合う。	原田選手が自分のアンダーウェアを身に付けているのを見て、「そうか。そうだったんだ…。」と言ったとき、どんなことに気付いたのでしょうか。 ・原田選手が自分を仲間だと思ってくれているのがうれしい。 ・原田選手は、ぼくたちテストジャンパーの思いももって飛ぼうとしているんだ。 ・原田選手はチームみんなで飛ぼうとしているのに、自分は自分が選	○原田選手が自分の思いを一緒にもって飛びたいと思っていることに気付いた西方さんの気持ちに共感することで、選手を支えたいという気持ちが高まったことに気付かせる。

		手として出場することしか考えてなかった。 ふぶきが激しくなる中、25人のテストジャンパーは、どんな思いで飛んだのでしょうか。 ・日本にメダルをとらせたい。 ・テストジャンパー全員がジャンプを成功させて、安全に飛べることを証明しなければ…。 ・ほめられなくても今自分のすべきことはこれだ。 選手として出場していない長野の金がずっしりと重く心に残っているのはどんな思いからでしょう。 【原田選手への思い】 ・自分の分も飛んでくれた。 【テストジャンパーたちへの思い】 ・全員が心を一つにしたから金メダルをとることができたんだ。 【役割を果たした自分への思い】 ・選手として金メダルをとれなかったけど、テストジャンパーとして金メダルに貢献できた。 ・注目されたりほめられたりしなくても、日本チームのためにを全力で役割を果たせた。 【自分を支えてくれていた人たちへの思い】 ・リレハンメルオリンピックのときに、自分もテストジャンパーに支えられていたんだな。 ・テストジャンパーだけじゃない。多くの人に支えてもらっていたんだ。	○西方さんだけでなく他のテストジャンパーも日本に金メダルをとらせようとテストジャンパーとしての役割を果たしたことをおさえる。 ○観客の拍手も歓声もない中でジャンプをするテストジャンパーの状況を捉えさせる。 ○金メダル獲得後の原田選手のインタビューの動画を見せ、臨場感を味わわせる。また、原田選手の言う「みんな」とは誰かを考えさせる。 ○長野オリンピックで自分が目立たなくてもチームのために役割を果たせた満足感を感じている西方さんの思いに共感させながら、ねらいに迫る。 ☆目立たなくても自分の役割を果たせたからこそ重く感じた満足感や充実感を感じ取っているか。 (道徳ノート、発言) ○T2が児童の考えを分類し、整理する。また、「自分なら誰にもほめられなくてもやりたいですか。」と問い返し、嫉妬したり認められなければやりたくないと思ったりする人間の弱さをおさえたうえで、集団のために自分の役割を果たすこと自体に価値があることを実感させる。 ○カリキュラム・マネジメントの視点から、2学期の他の学習、行事等を具体的に取り上げて考えさせる。
--	--	---	--

	③「西方さんのメッセージ」を聞く。	「西方さんのメッセージ」を聞きましょう。	○西方さんのメッセージを聞き、「集団のために役割を果たす」ことについての考えが深まるようにする。
終 末 7 分	④本時の学習から、これからの自分に生かしていきたいことを考える。	今日の学習でどのようなことを学びましたか。 ・目立たなくても、ほめられなくても、集団のために大切な役割があり、それをきちんと果たすことが大切だと気付いた。 ・今までほめられるために仕事をしているときがあったけど、これからはみんなのためにがんばりたい。	○教材を通して考えたことをもとに、自分の生き方について考えさせる。 ○道徳科学習プログラムのねらい「よりよい学級、学校をつくるため」の視点からも自分が果たす役割について考えさせる。 ☆社会や集団には様々な役割があり、それぞれが自己の役割をしっかりと果たすことが大切だということに気付いているか。 (道徳ノート，発言)

9 板書計画



10 成果（○）と課題（▲）

○「長野オリンピック」「スキージャンプ」は，児童にとって身近なものではないため，動画を活用して視覚的に理解させた点は効果的だった。

○ペアトークでは，児童同士自分の思いをしっかりと伝えていた。日頃からペアトークでの話し合いに取り組んでいる様子がよく分かった。

○児童がねらいに向かってしっかりと考えていた。

▲中心発問「選手として出場していない長野の金がずっと重く心に残っているのは，どんな思いからでしょう。」に対して，児童が「テストジャンパーになったから，メダルの重さを知った。」と発言した。この児童の言葉を全員で考える時間をとるとより深くねらいに迫ることができた。

▲繰り返し発問が効果的だったが，児童の発言に対し，様々な問い返しができるよう，3～4つ繰り返し発問を用意しておくと，なお良い。

